

別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記4の第6関係）

鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止総合支援事業の評価報告（目標年度:令和6年度）

沖縄県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

沖縄県における被害防止計画の数は、市町村が単独で作成した被害防止計画21画（主にあるま市以北の市町村と離島）と、複数の市町村が広域的に活動する協議会（本島南部地区・本島北部地区）による被害防止計画2画の合計23画である（令和7年9月現在）。そのうち目標年度を令和8年度に設定し、本文交付金事業を実施しているのは、4市町村（宜野座村、金武町、竹富町、恩納村）である。
沖縄本島南部地区7市町村はシロガシラによる農地野果の被害防止対策が共通課題であるため、沖縄本島南部地区野生鳥獣被害対策協議会においてシロガシラを対象鳥獣とした被害防止計画を作成している。また北部地区9市町村においても、平成26年5月に「沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会」を立ち上げ、ハンフトガラスによる農作物への被害軽減を目的に、被害防止計画を作成している。その他地域については、加害鳥獣や栽培作物が異なるため、市町村単独で被害防止計画を作成している。

2 事業効果の発現状況

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。
事業を実施している伊是名村、座間味村、北大東村、石垣市の市町村においては、対象鳥獣の捕獲許可権限委譲を受け、市町村長の許可により、有害鳥獣の捕獲等を行った。猟友会を含めた鳥獣被害対策実施隊を設置し、銃器や箆わなによる駆除を行うなど、効率的な体制により速やかに有害捕獲活動に取り組んだ。また、担い手育成を兼ね狩猟免許取得等の人材育成、今後の被害防止に向けた取り組みも行った。石垣市有害鳥獣対策協議会では、ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組として、捕獲した鳥獣の処理加工等に関する研修会等、販売拡大支援を行った。
沖縄本島北部地域及び八重山地域においては、イノシシによる農作物への被害が多発しており、被害が多いほ場を中心に侵入防止対策としてワイヤーメッシュ柵を整備した。被害防止の効果は大きく、受益ほ場については被害が無くなったが、未整備のほ場を中心に依然として被害が発生していることから、被害状況を確認し、引き続き、被害防止に有効な整備をしていく。併せて、イノシシを寄せ付けない対策（ほ場の残渣物の管理、ほ場周辺の環境整備）にも取り組む必要がある。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害防止計画の目標の達成状況を記載する。
推進事業においては、恩納村有害鳥獣対策協議会、宜野座村鳥獣被害防止対策協議会、金武町鳥獣被害防止対策協議会、竹富町有害鳥獣対策協議会が、有害捕獲を中心に取り組んだ。宜野座村及び金武町においては、イノシシの侵入防止柵と一体的な有害捕獲活動を推進したことによって、目標を達成することができた。しかし、恩納村については、獣類の生息域の移動等によって、竹富町においては、実態把握の強化（被害実態の掘り起こし）したことによってこれまで報告されてこなかった被害が顕在化したことによって、目標未達成となった。
整備事業においては、宜野座村と竹富町の協議会が令和4、5、6年度にワイヤーメッシュ柵を整備した。恩納村の協議会は令和4年度、金武町の協議会は令和4、5年度にそれぞれ整備した。整備した被害防止柵の効果は大きく、受益ほ場については被害が無くなった。しかしながら、未整備ほ場を中心に依然として被害が発生しており、目標未達の要因の一つとなっている。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 （協議会名）	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
沖縄県	沖縄県全 域	R6	イノシ シ、ハ シブト ガラ ス、ク ジャ ク、シ ロガシ ラ	新技術実 証・普及活 動	2,047,994円 ・鳥獣被害防止展示ほの設置 ・シロガシラ、ハンフトガラス の生息調査（沖縄本島中部地 区）	-	-	-	【鳥獣被害防止展示ほの設置】 北部地区において、まだ普及が進んでいない電気柵によるイノシシ対策の実証展示柵を設置した。設置場所は名護市で、供試品目はスイートコーン。ほ場面積は7aであった。試験期間中に当該ほ場付近のイノシシの往来は確認されなかったが、説明書やYouTube等を参考に容易に設置でき、コスト面や機能面においても生産者からの評価が高かったことから、今後の普及可能性が示唆された。今後とも試験を繰り返し、他のほ場でも効果が示されるか確認していきたい。 一方で、電気柵は設置後の柵周辺の雑草防除管理に多大な労力をするという課題がある。そこで、八重山地域では、低コスト資材（防風ネット等）の設置することによるイノシシ被害軽減の実証展示柵を設置した。その結果、防風ネット柵を設置したほ場にはイノシシ被害は確認されなかったことから、被害防止に一定の有効性が示された。こうした知見を広げることで、生産者は設置時・設置後の管理コストを助産して、当人に適した侵入防止柵を選択できるようになると期待される。 【シロガシラ、ハンフトガラスの生息調査（沖縄本島中部地区）】 効果的な被害防止対策を講じる為、沖縄本島中部地区（うるま市、中城村）におけるハンフトガラス、シロガシラの生息調査を行った。これらの地域においては、シロガシラの推定個体数・密度は令和2年度と比較して減少している。一方、ハンフトガラスについては、推定個体数・密度とも令和2年度と比較して増加している。 行動パターンや詳細な生息地域などを把握できたことによ	-	-	-	-	-	-	今回の実証ほ設置により効果的かつ低コストな対策指導の基礎資料とすることができたので、鳥獣被害軽減対策指導として普及していきたい。 沖縄県における野生鳥獣による被害は、平成30年度に84,998千円に増加したが、それ以降、いったん減少傾向を示したが、令和5年度、6年度については、それぞれ75,040千円、76,031千円と同程度で推移している。 引き続き有害捕獲活動を実施し、侵入防止柵等の整備や、地域のニーズに合わせた被害防止対策の普及推進により、さらに被害軽減を図っていく。		
										恩納村有害鳥獣対策協議会	恩納村	R4	推進事業 1,503,000円 ・有害捕獲 整備事業 1,246,203円 ・ワイヤーメッシュ柵 628m	恩納村有害鳥獣対策協議会	R4	100%	1,532千円	2,887千円
金武町鳥獣被害防止対策協議会	金武町	R4	推進事業 973,500円 ・有害捕獲 ・被害防除 整備事業 1,260,864円 ・ワイヤーメッシュ柵 640m	金武町鳥獣被害防止対策協議会	R4	100%	465千円	448千円	115%	0.3ha	0.1ha	333%	イノシシの被害金額および被害面積のいずれについても目標を達成できた点で、高い事業効果はあつたと評価できる。特にメッセージアプリを使った情報共有は、捕獲頭数の推移から、捕獲効率を高める効果があつたと示唆された。その一方で、被害金額自体はやや増加傾向にあるので、引き続き、高い捕獲圧を維持し続ける取組が重要といえる。	沖縄環境経済研究所 代表取締役 上原 辰夫（農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー）				
														</				

[illegible]

